

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする <ul style="list-style-type: none"> 当センターのレジデント修了者 関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み 上記と同等の能力を有する医師 ※医師免許取得後経過年数の上限はない
	研修目標	<ul style="list-style-type: none"> 緩和医療を専門とする医師になるために必要ながん患者および家族の全人的苦痛の評価とその対応を修得する 日本緩和医療学会の専門医を取得する 緩和医療における研究を立案・遂行し、緩和医療分野においてリーダーシップを発揮できるようになる
	研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、2年間の研修期間のうち12カ月間以上は緩和医療科で研修し、残りの期間は精神腫瘍科、在宅療養支援診療所、内科、放射線診断科、放射線治療科などを、各自の希望に応じて選択してローテートする 外来診療も可能である 緩和医療分野における研究を立案・遂行する。連携大学院制度を用いた学位取得も可能である
	研修の特色	緩和ケア病棟、緩和医療科外来、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアにおいて専門的な研修を行い、緩和医療の専門家としての知識・技能を修得可能である。緩和医療分野の研究を十分なサポート体制のもとで立案・遂行することを経験し、緩和医療分野においてリーダーシップを発揮できる力を身につけることが可能である

レジデント 3年コース・ 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする <ul style="list-style-type: none"> 採用時に医師免許取得後3年目以降 基本領域専門医または認定医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	<ul style="list-style-type: none"> 緩和医療を専門とする医師になるために必要ながん患者および家族の全人的苦痛の評価とその対応を修得する 日本緩和医療学会の専門医取得を目指す
	研修内容 3年コース	<ul style="list-style-type: none"> がん診療や研究を幅広く経験できる3年コースを推奨 原則として、3年コースの3年目には外来診療も可能 連携大学院制度を用いた学位取得も可能 原則として、18カ月間以上は緩和医療科で研修し、残りの期間は精神腫瘍科、在宅療養支援診療所、内科、放射線診断科、放射線治療科などを、各自の希望に応じて選択してローテートする
	研修内容 2年コース	<ul style="list-style-type: none"> 2年コースは臨床ローテート主体 原則として、12カ月間以上は緩和医療科で研修し、残りの期間は精神腫瘍科、在宅療養支援診療所、内科、放射線診断科、放射線治療科などを、各自の希望に応じて選択してローテートする
研修の特色	緩和ケア病棟、緩和医療科外来、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアにおいて専門的な研修を行い、緩和医療の専門家として様々な場面に対応できる知識・技能が身につく。研修プログラムの構成は、個々の研修者に合わせて柔軟に対応可能である	

レジデント 短期コース	対象者	原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする ※医師免許取得後経過年数の上限はない
	研修目標	緩和医療に関する専門的な知識・技能を修得することを目標とする
	研修内容	<ul style="list-style-type: none"> おもに緩和ケア病棟、緩和ケアチームにおいて研修を行い、緩和医療に関する専門的な知識・技能を修得する 研修期間は、最短3カ月～最長1年とする ※原則として3カ月単位とする 原則として、他科のローテーションは行わない
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能である

専攻医 コース	対象者	基本領域専門医取得のため研修中の専攻医を対象とする 下記の全ての条件を満たした医師が対象となる <ul style="list-style-type: none"> 採用時に医師免許取得後3年目以降 専門医制度の連携施設として国立がん研究センター東病院を選択した専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする
	研修内容	国立がん研究センター東病院に、3カ月単位、最長2年間に在籍する。原則として、他科のローテーションは行わない
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能である